



図書館ニュース

# 盛り上がりました！ 図書館まつり

10月30・31日に「図書館まつり～図書館へいこう'21」がありました。

たくさんの方が来館され、催し物へ参加したりして本の世界を楽しんでいただきました。

読書の秋を満喫できた2日間でした。



# 職場体験がありました

10月28・29日に、長与中学校の生徒4名が図書館で職場体験をしました。

最初は緊張していた様子でしたが、利用者の方から「ありがとう。がんばってね。」と温かい励ましをいただき、最後まで一生懸命に仕事をすることができました。



## 新着図書

<小説>

『そらのことばが降ってくる 保健室の俳句会』

高柳 克弘／作 ポプラ社

<小説>

『5分後に意外な結末 Q 正解より素敵なパズルの解き方』

桃戸 ハル、伊月 咲／著  
usi／絵 学研プラス

<小説>

『ラストで君は「まさか！」と言う 君との約束』

PHP 研究所／編  
PHP 研究所

<仕事>

『ファッションの仕事で世界を変える エシカル・ビジネスによる社会貢献』

白木 夏子／著 筑摩書房

<食文化>

『古典がおいしい！平安時代のスイーツ』

前川 佳代、宍戸 香美／著  
かもがわ出版

<音楽>

『吹奏楽部バンザイ!! コロナに負けない』

オザワ部長／著  
ポプラ社

<科学>

『ジュニア空想科学読本 22』

『ジュニア空想科学読本 23』

柳田 理科雄／著 きっか／絵 KADOKAWA

<一般書・小説>

『大正浪漫 YOASOBI 「大正浪漫」原作小説』

NATSUMI／著 双葉社

<一般書・スポーツ>

『見るだけでうまくなる！陸上競技の基礎』

後藤 彰英／著  
ベースボール・マガジン社

## 図書館 カレンダー

この印が休みの日です

### 11月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

※11月の館内整理日は、第3水曜日です。

第4水曜日は、開いています！

### 12月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

開館時間 10時～18時



図書館の中はマスク着用をお願いします。

## 今月の特集コーナー

<児童書テーマ>

「どんな仕事があるのかな」

『人生とは、人の役に立つこと 働くしあわせ』

(大山 泰弘／著 WAVE 出版)

著者はチョークを作る会社の社長だったとき、知的障がい者を雇った経験から、働くことで得られる4つの幸せに気づきました。どの仕事にも共通する、働く喜びについて一緒に考える本です。

<一般書テーマ>

「良い夫婦とは？」

『その時までサヨナラ』

(山田 悠介／著 文芸社)

仕事に夢中で家庭をかえりみない悟と、そんな夫を理解できない妻の亜紀。離婚寸前だった矢先に、亜紀が事故死してしまいます。残された息子との生活に謎の人物が現れ、悟はふりまわされます。

「はっさくさんの本棚」で紹介された本は、長与町図書館で借りられます。

『ノーベル賞とアルフレッド・ノーベル』(こどもくらぶ／編 岩崎書店)

『こんな家に住んできた 17人の越境者たち』(稲泉 連／著 文藝春秋)

『夢を実現する発想法 iPS 細胞×はやぶさ、世界で初めての偉業を

成し遂げた二人が語った』(川口 淳一郎、山中 伸弥／著 致知出版社)

『クラゲに学ぶ ノーベル賞への道』(下村 脩／著 長崎文献社)

『クララとお日さま』(カズオ・イシグロ／著 土屋 政雄／訳 早川書房)

## はっさくさんの本棚



今月は「ノーベル賞」をテーマにブックトークをするよ。

今年のノーベル物理学賞に真鍋淑郎氏が選ばれたのう。受賞理由は、地球温暖化をコンピューターで予測する気候モデルを開発したことだそうじゃ。これは温暖化問題への関心が高まるきっかけになった。SDGsで「気候変動に具体的な対策を」が挙げられておるように、世界中で取り組んでおる重要な課題じゃ。

『ノーベル賞とアルフレッド・ノーベル』によれば、ノーベル賞は「人類に貢献した人」に贈られるそうじゃが、受賞者のことをもっと知りたくないかい？

例えば2012年に生理学・医学賞を受賞した山中伸弥氏は『夢を実現する発想法』の中で自分のことを「不器用な人間」と評しておる。またチャレンジ精神を大事にしており“心は人の原動力”と感じておるそうじゃ。ちょっと親近感がわいてきたのう。

どんな生活をしておるのか興味があるなら『こんな家に住んできた』に受賞者2人が住んでいた家の間取りが紹介されておる。生い立ちや研究の苦勞、家族との思い出がつづられており、少し違った角度から人物像を知ることができるよ。

長崎県にゆかりのある受賞者を紹介しよう。まずは2008年に化学賞を受賞した下村脩氏じゃ。『クラゲに学ぶ』には、17歳のとき原爆体験をし、そこから人生観が変わったと書かれておる。そのことが後に重大な局面で冷静な判断をするのに、プラスとなったそうじゃよ。もう一人は2017年に文学賞を受賞したカズオ・イシグロ氏じゃ。最新刊の『クララとお日さま』は人間とAIロボットの友情の話じゃ。最新型ロボットは次々と買い手が決まる中、旧式ロボットは売れ残って店の片すみに移される。そんなとき出会った運命の人と一緒に年月を重ねる…。わしはロボットに感情移入して、最後まで一気に読んでしまったよ。

読書の秋に読みたい本は、見つかったかな？